

北九州憲法ネットニュース

発行 9条の会・北九州憲法ネット 2012年9月10日 第57号
 TEL592-5000 fax 571-4346
 803-0817 北九州市小倉北区田町13番21号田町ビル3F
 URL⇒<http://kitaq-kenpou.net/>

第9条

戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認

日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

9条の会・北九州憲法ネット2012年度総会を開催！

「力強い元気をもらった！」好評だった井下顕弁護士の記念講演

9月1日、9条の会・北九州憲法ネットの第9回総会が、ウェルとばた多目的ホールで開かれました。47名の参加でした。終了後、記念講演が行われ、井下顕弁護士（福岡市で事務所開設）が講演しました。

総会では、後藤景子事務局次長が司会し、主催者挨拶を荒牧啓一憲法ネット代表世話人・座長が行いました。議案提案は、同じく、三輪俊和副座長が一括で説明し、拍手で承認されました。討論の中では、「こうじゃく9条の会」の葉山さん、「キリスト者9条の会北九州」の長谷川さん、「憲法9条を守る八幡東区の会」の石井さんが発言し、各9条の会の活動の報告や、憲法運動への思いを語りました。会場からの質問は「現在の憲法審査会の動きはどうなっているか？」が出され、これについては、今後、憲法ネットのホームページで紹介していく事が確認されました。

記念講演では、井下顕氏が「日本国憲法を光り輝かせるために～私たちに出来ることは何か」と題して行いました。氏は、まず、自分が弁護士として関係した労働相談の切実な内容の紹介から話し始めました。過労死・過労自殺の増大、家庭崩壊、学級崩壊、貧困の蓄積の一方、急膨張する大企業の内部留保。政治の分野でも「愚作」が止まらない。消費税、TPP、オスプレイ、竹島、尖閣諸島の対応、原発問題・・・愚策は、支配層にとっての“打開策”だと氏は話す。この対決として、日本国憲法を



主催者挨拶をする荒牧啓一代表世話人

活かす事を提唱する。職場や政治に憲法を生かす事が必要と説く。そして、憲法を変えようとする勢力との正面からのたたかいがいつそう強まってくる事を熱意をこめて語りかけました。特に印象に残ったのが、「日本国憲法は社会変革のための綱領であり、憲法の条項には国を変えていく道筋や『国民が主人公』の政治を作って行く事が書かれている。なかでも国民の思想や表現の自由(21条)を守るため、憲法条項を“分りやすく・おもしろく・深く”語っていく学習大運動に取り組む必要がある」と熱く語ったところでした。

終了後の参加者の感想では、アンケートが12枚回収され、そのすべてが講演について「良い」と答え、好評でした。感想文をいくつか紹介します。

* 坂本修弁護士が来れないことで、少し、がっかりしていましたが、福岡県に、若い立



記念講演をする井下顕弁護士

派な弁護士が育っている事に喜びを感じました。いつまでも有名人に頼らない運動が必要ですね。(60代・男)

* 展望の持てる話で、力強い元気をもらった気がします。特に、最近の民主党政権の暴走は、支配勢力のあせりの表れで、国民の

闘いの成果ではないのか？更に、粘り強く、残りの人生を活動してと、思っている。(81歳・女)

* 具体的な裁判、社会の中で起こっている人権を妨げる問題と憲法の関わりをお話くださったこと、また、憲法がこの国を変えていく綱領であるので、分かりやすく、楽しく伝え、多くの人と手を携えていくことで、それは実現できるとのお話に力をいただきました。アイデアを持って、みなさんと、楽しくつながり、行動していきたいと思えます。(女・50代)

* 資本主義の仕組みから、憲法「改正」問題を語るという、ダイナミックな話を、分かりやすく話していただき、よく理解ができました。井下弁護士の情熱が伝わり、私も頑張らねばならないと思いました。(男・50代)

八幡東九条の会が 「沖縄復帰40年講演会」開催

八幡東九条の会 安達恵美子

8月25日、八幡東九条の会は沖縄の本土復帰40年にあたって八幡キリスト教会牧師で北九州ホームレス支援機構の森松長生氏に講演をお願いしました。他の行事と重なって数名の方がさんねながら参加できませんでしたが、23名の参加者は「沖縄復帰40年と私」と題した二時間余りの講演を、時間がたつのも忘れるほど深い感動を覚えながら聞きました。

5枚にわたるレジュメには、自己紹介からはじまる五項目にわけて沖縄問題が整理されています。その一項目ごとに詳細にお話され、項目ごとに設けられた空白スペースは、びっしりと埋められていきました。

1960年に那覇市に生まれ12歳で本土復帰、20歳で上京するまで基地のある沖縄の生活が当たり前だと思っていたこと、上京後、沖縄差別を経験して本土を憎んだこと、後に、沖



講演する森松長生牧師(八幡キリスト教会)

縄が米軍と生きていく中でベトナム戦争に加担してきたと知った。それを知ったのは外国(東南アジア)でのことだった。沖縄が被害者であると同時に加害者であったと知ったときから本

土への憎しみが消えた、との話に深い沖縄の人たちの悲しみを見るようでした。戦争とは相手を知らせない（人間と思わせない）こと、平和のためには相手を知ることが一番大切。愛すること、知ること、ゆるすこと、学ぶことが大事。平和な今日、今が平和を作り出す活動をする大切な時期だ。と結ばれました。



第5回八幡東区平和まつり 300名参加

八幡東九条の会 三崎 英二

今年で5回目になる「戦争で犠牲になった方たちへの追悼をささげ、二度と戦争をさせない、二度と原爆を使わせない、平和への祈りと気持ちを表す」ための八幡東区平和まつりを8月26日（日）17時より中央町レインボープラザ前広場で行いました。

今年は民主団体以外の巾広い層の人に参加してほしいということでフリーペーパーのサンデーに祭りの広告を出したところたくさんの子供連れなどでにぎわいました。

ステージでは主催者あいさつを生健会の吉田会長が行い、催し物は新日本婦人の会のフラダンスやカラオケ、ゆいっこの太鼓演奏、ストリートミュージシャンのフジさ



んによるミニライブ、簾さんによるアコーディオン演奏など多岐にわたり、最後に「二度と悲惨な戦争は繰り返さない」という思いを込めて会場全体で「原爆を許すまじ」「野に咲く花のように」「青い空は」を合唱しました。

また、焼き鳥やかき氷、カレーライスといった出店も出て、多くの参加者が舌づつみを打っていました。

展示は八幡原水協による原爆パネルと9条の会によるDVD上映、そして核兵器と原発をなくす署名を置き署名を訴えています。



随想**あんなことコンナコト**

去る6月22日、学園大通り入り口で街頭署名活動を実施しました。その日は「本城赤坂九条の会」から5名参加していただき、総勢9名で実施しました。なんと心強かったことでしょう。「本城赤坂九条の会」の方々に感謝、感謝とともに本当に勇気づけられました。そして署名は48筆も集まったのです。

参加者が多いということは、訴える内容もさまざま、より多くの人たちに声をかけることができます。「九条を守ろう」というメモ用紙も好評でした。

この日、こんなこともありました。学校帰りの高校生二人が署名をした後、しばらく私たちの署名活動を見ていて(あまり署名に協力する人がいないのを察してか)「僕たちにもやらせてください。たくさん集めます。」と言ってきました。

彼らの若さに期待してお願いしました。彼らは特に女子学生をターゲットにして近づいて行き、署名を頼んでいたようですがなかなか成果が上がりません。署名をしてもらおうと大喜びしていましたが、ずっとそばを通りぬけられるとしょんぼりした様子がおかしくもあり、ほほえましくもありました。

7月13日は雨で中止。27日には本城赤坂からやはり5名参加していただきましたが、あまりの暑さに30分で切り上げました。それで、も28筆集まりました。数の力は訴える力に比例するのですね。 現在までの署名集約数 8月24日現在 8331筆

事務局員 野口千恵子(憲法を守る折尾の会No.842012年7月発行「おりお」から)

カンパ有難うございます。そして、お願い。

「9条の会・北九州憲法ネット」は会費をとらず、皆さんからのカンパのみで運営しています。毎月一回「北九州憲法ニュース」を発行し、また時々の憲法講演会の案内チラシを作成していますが、ニュース、チラシ等の印刷費や郵送料の捻出に四苦八苦しています。皆様からのカンパを是非お願い致します。カンパにご協力いただける方は下記の郵便振替口座までお願い致します。 振替番号：01700-8-115768 名義：「九条の会・北九州憲法ネット」

- **カンパ7月** 後藤景子 近藤伊都子 八記久美子 三輪俊和 三輪幸子 荒牧啓一 山根二三子 三崎英二 古賀三千人 高智彦 小池正信 須崎健一 永富雅生 戸上省二 戸上栄子 玉井史太郎 勝野禎二 土井聖子 石橋 近 樋口コスエ 渡辺末子 清松賢治 上田義彦 上田秀子 山本猛雄 吉永一 阿部陽子 三輪俊和 三輪幸子 水上平吉 塚本玲子 八記久美子 小鉢由美 末安良光 **8月** 勝木多美 川原巍誠 山本知恵子 小川由美 野瀬秀洋 丹下徹 周南隆男 桑本ユキコ 高野和夫 織田博志 森田禮三 河村智重子 村上憲子 **9月** 野瀬秀洋 丹下徹 **メッセージ** ●カンパです。いつもニュース拝見させていただいています。7/17 M. E ●僅かですが会費として納めます。7/17 K. M ●カンパ 7/17 K. T ●小額ですが、カンパです。7/17 S. K ●人類の明日を愁ひて反原発の訴訟の列に連なる 7/18 T. F ●カンパ 7/18 K. T ●わずかですがカンパします。7/23 M. H ●お疲れ様です。わずかですみません。7/31 S. Y ●暑いですが。お身体に気をつけてください。8/6 O. Y ●ニュースの封筒が届くと、気持ちがワクワクして、すぐに開封して目を通します。時機を得た記事に気持ちが『ウン、ウン』と頷きます。いつもありがとうございます。8/15 T. K

「九条の会」メルマガ詳細版 2012年9月10日 第148号 編集後記～改憲派の蠢動

5年ほど前、改憲を公言しながら突然政権を投げ出した安倍晋三氏が、このところ自民党総裁選を前にまた蠢動し始めた。次回の衆院選に大量の候補を出すと云っている橋下・維新新党とは改憲で一致する、連携したいとも言っている。同様に、自民党のタカ派で知られている石破茂氏との連携も模索しているようだ。この秋、私たちはこうした危険な改憲派の蠢動を許すわけにはいかない。(T)